

<海外の大学における日本研究 Japanese Studies in Overseas Universities : Europe> リトアニアにおける日本研究 : 歴史・現状・課題

著者	高馬 京子
雑誌名	世界の日本研究
巻	2015
ページ	149-157
発行年	2016-05-31
特集号タイトル	「日本研究」を通じて人文科学を考える Contemplating the Humanities through Japanese Studies
URL	http://doi.org/10.15055/00006369

リトアニアにおける日本研究——歴史・現状・課題¹

高馬 京子

はじめに

リトアニアというと、日本ではナチスドイツの迫害から逃れたユダヤ人に日本の通行査証を発給した杉原千畝の名をまず思い浮かべる人も少なくないだろう。リトアニア観光局調査によると、2012年は、年間約1万人弱の日本人観光客が訪れたといわれているが、日本人にとってまだリトアニアは、それほど馴染みのある国ではないのではなかろうか。

バルト海に面するバルト三国の一番南に位置する国リトアニアは、14世紀にはリトアニア大公国としてバルト海から黒海に至る領土を持つ大国であったが、現在、面積約6.5万km²、人口約297万人、在留邦人69名（2013年現在）という小さな国である。1236年にリトアニア大公国が成立した後、1336年にリトアニア・ポーランド王国成立、1795年にロシア領となり、第一次世界大戦後に独立したものの、1940年にはソ連に編入されるなど、近隣大国との緊張関係に長期にわたり直面してきた。1990年の独立回復後は、1991年10月10日に新たな外交関係を復興し、1997年1月に首都ビリニュスに在リトアニア日本大使館も開設した。NATOおよびEUへの加盟を2004年に実現し、2013年後半にはEU議長国にもなった²。そのようなリトアニアで日本研究がどのようになされてきたのか、以下に概観していきたい。

リトアニアにおける日本研究の第1期

ビルーテ・ライリヤネ（Birutė Railienė）氏によると、1891年に新聞 *Žemaičių ir Lietuvos apžvalga*（ジヤマイティス・リトアニアレビュー）に掲載された、日本におけるカトリック師団の活動についての情報が、日本に関する最初の記述とされている。その後、1900年までに、日本における信仰、詩、政治活動な

1 本報告は、2014年8月時点で調査した情報に基づく。

2 在リトアニア日本大使館情報 http://www.lt.emb-japan.go.jp/japanese/ryoji_j/anzen/keitai_lithuania.pdf (2013年11月22日参照)。

ど、日本に対する印象記として5つの記事が紹介されているとする。ライリヤネは、当時のリトアニア解放最高委員会委員長であり、1918年のリトアニア独立宣言の署名者、また技術者、教授であったステポーナス・カイリース (Steponas Kairys, 1879–1964) によって書かれた3冊の著書 *Japonija seniau ir dabar* (日本昔と今)、*Kaip japonai gyvena dabar* (日本人の現代生活事情)、*Japonų konstitucija* (日本の憲法) が、リトアニアにおける日本学最初の書であろうと指摘する³。日露戦争当時、リトアニアはロシア帝国に併合されていたが、日本勝利後の1906年(明治39年)、日露戦争でロシアを負かした小国日本に、帝政ロシアの支配下で独立への悲願を抱いていた作者は勇気づけられ、訪日経験のないカイリースがペテルブルグ、ビリニュスで収集した情報で執筆したといわれている⁴。

リトアニアにおける日本研究の第2期

旧ソ連時代は高等教育機関として、独立したアジア研究の教育機関を設立することがかなわず、当時日本学を含む体系的なアジア研究のためには旧ソ連の教育機関に留学するしか方法はなかった⁵。そのような状況下、ビリニュス芸術学院 (Vilniaus dailės akademija) では1977年以降、日本の文化・哲学・美学・芸術に関する講義がアンターナス・アンドリヤウスカス (Antanas Andrijauskas) によって開講される。その中から、中国画・日本画の伝統について研究したイエバ・ディヤマンテイテ (Ieva Diemantaitė) や、「メルロポン

3 Birutė Railienė, “Pirmosios žinios apie Japoniją lietuviškoje spaudoje. Stepono Kairio trilogija (1906 m.)” (リトアニアの新聞における日本に関する最初の情報ステポーナス・カイリースの三部作) . In *Rytų Azijos studijos Lietuvoje/East Asian Studies in Lithuania*, ed. A. Zykas, Vytautas Magnus University, 2012, pp. 93–101.

4 ステポーナス・カイリースについて調べた日本人ジャーナリスト平野久美子の『坂の上のヤポーニア』(産経新聞出版、2010年)による(62頁)。

5 ビリニュス大学アジア学センターホームページ <http://www.oc.vu.lt/en> (2013年11月22日参照)、および Dalia Švambarytė, “On the development of Japanese Studies at Vilnius University” in *Japan and Europe in Global Communication*, Mykolas Romeris University (K. Koma, G. Ciuladiene, 2014) を参照。ダリヤ・シュヴァンバリーテによると、1810年、ビリニュス大学に東洋言語学部が開設され、1822年にアラビア語、ペルシャ語などが教えられるようになったものの、1832年に時のロシア皇帝によって大学自体が閉鎖され終焉を迎えた。アイヌ研究で知られるポーランド文化人類学者 Bronisław Piłsudski (1866–1918) もリトアニア出身である。また、ソ連時代もアジア研究は推進されなかったものの、サンスクリット語とリトアニア語の類似から、インド学が盛んであったことを指摘している (Švambarytė, 同上)。

ティと西田幾多郎」を考察した、書道家でもある元リトアニア文化大臣アルーナス・ゲルーナス (Arūnas Gelūnas) などの美学・哲学を専門とする後進が育っている⁶。

また、リトアニア東洋学会 (Lietuvos orientalistų asociacija) が1979年に発足し、ビリニュス芸術学院やビリニュス大学が中心となって、哲学・美学という分野における、西洋と東洋の比較研究コンフェランスが行われた。その会長を務め、ヴィータウタス・マグヌス大学の教員でもあったネイマンタス・ロムアルダス (Neimantas Romualdas, 1939–2009) は自らの日本への旅行を基に、日本の文化や芸術、伝統や風習に関する「印象記」として、*Gyvenimas ant ugnikalnio* (火山の上の生活、1984年)、*Pasaulis puodelyje arbatos* (茶碗の中の世界、1994年)、*Nemuno iki Fudzijamos* (ニャムノ川から富士山まで、2003年) などをまとめている⁷。

リトアニアにおける日本研究の第3期⁸

A. 独立後の日本学

独立後の1993年、リトアニアの首都ビリニュス大学 (Vilniaus Universitetas) にアジアセンターが設立されたが、その設立に先駆けて、ビリニュス大学では、サントペテルブルク (旧レニングラード) 大学で日本学を学んだダリヤ・シュ

6 この記述は、2013年11月21、22日に筆者が行ったアンターナス・アンドリヤウスカス教授とのメールを通してのインタビュー、また、同氏の論文“Orientalistikos atgimimas Lietuvoje (1977–1992): orientalizmo transformacijos į orientalistiką pradžia” (リトアニアにおけるオリエント学の誕生 (1977–1992): オリエンタリズムから東洋学への変化の発端) in *Rytų Azijos studijos Lietuvoje/East Asian Studies in Lithuania*, ed. A. Zykas, Vytautas Magnus University, 2012, pp. 19–54 に基づいている。

7 ネイマンタス・ロムアルダスに関する記載は、Aurelijus Zykas, ed., *Rytų Azijos studijų raidos Lietuvoje bruožai* リトアニアにおける東アジア研究の軌跡 (ibid, p. 12) に依拠する。

8 ビリニュス大学における日本学・日本研究については、2013年11月16日に筆者によるビリニュス大学、ダリヤ・シュヴァンパリーテに対するメールによるインタビューおよび Dalia Švambarytė, “On the development of Japanese Studies at Vilnius University” in *Japan and Europe in Global Communication*, ed. K. Koma and G. Ciuladiene (Mykolas Romeris University, 2014) を基にしている。また、ヴィータウタスマグヌス大学については、同大学アジア研究センターホームページ <http://asc.vdu.lt/> を参照。ミコラスロメリス大学については http://www.mruni.eu/lt/universitetas/struktura/azijos_centras/aktuali_informacija、および筆者の体験からの叙述である。

ヴァンバリーテ (Dalia Švambarytė) 現ビリニュス大学准教授らが1992年から日本語教育をスタートさせている。また、同アジアセンターではリトアニアで初めて、人文科学を中心とした日本学を含むアジア学プログラム学士課程が2000年に⁹⁾、日本専攻を含む現代アジア学修士課程が2006年にスタートしている。当初、日本語教育や日本語、中国語の古典テキスト読解が中心でなされていたが、近年は学生の興味に従って社会科学の幅広い領域へとシフトする傾向にある。また、シュヴァンバリーテが中心となり、学生とのワークショップを通して『漢リ字典』を出版するなど、日本語教育に力を注いでいる。

1995年には、俳句研究者であるヴィータウタス・ドゥムチウス (Vytautas Dumčius) 主導の下、クライペダ大学に東洋学センターが設立され、日本語・日本文化の授業が開講された。全学部共通自由選択科目としての日本文化講義は毎年80名から230名の学生が集まるほどの人気であったといわれている¹⁰⁾。

また、二つの大戦間にビリニュスがポーランド領となっていた際、当時首都であったカウナスにある、筆者の前任校でもあったヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytauto Didžiojo Universitetas) では、1993–95年、現中部大学の小島亮教授によって「日本の歴史、文化、社会」の講義が、1996年にアリヴィーダス・アリシャウスカス (Arvydas Ališauskas) 講師¹¹⁾ 主導で、本格的に日本語教育が始められた後、2001年に、日本人外交官杉原千畝が亡命ユダヤ人に通過査証を発給したことで知られる旧日本領事館跡地に同大学の日本学センターが設置された。2007年9月に政治外交学部地域学科との協力の下、東アジア地域研究修士課程(政治学)を設置したアウレリウス・ジーカス (Aurelijus Zykas) がセンター所長となり、2009年には日本学センターはアジア学センターへと移行した。また、同センターは、2012年9月、人文学部との協力の下、「東アジアの言語文化」学士課程を開設し、現在に至っている。

9 そこに入学を許可された学生の推移は、2000年10名、2002年9名、2004年8名、2006年12名、2008年12名、2010年14名、2012年27名、2013年16名である。学士論文のテーマも文学、言語学、社会学と、人文科学が中心である。

10 2013年11月24日、筆者によるヴィータウタス・ドゥムチウスへのメールインタビューを基にしている。

11 リトアニアで最初のリトアニア語－日本語の翻訳、日本語・日本文化教育の普及に貢献したことで、リトアニアの民間人としては初めての旭日小綬賞を2012年に叙勲している。

ミコラスロメリス大学では、2013年2月にアジアセンターが開設されたのを機に、日本語・日本学を含む東アジア文化などの選択科目の設置、大使館の協力の下、茶道、書道、和紙作り等、教員・学生向けの日本文化ワークショップの開催、日本からの招聘教授の集中講義、国際交流基金助成による日本からの招待講演者（コミュニケーション、政治国際関係、経済学、言語学、文化学）を招聘してのコンフェランス「グローバルコミュニケーションにおける日本とヨーロッパ」の開催（2013年11月7日-8日）および出版等の諸活動を通して、日本学を中心としたアジア学課程への準備がなされている。

以上見てきたように、リトアニアでは、日本学という独立した形ではなく、アジアセンターの中の一環としての日本学という傾向が強い。日本学関連の教員は、現在ビリニウス大学に7名（日本文学、日本語学、美学、哲学など）、ヴィータウタス・マグヌス大学に4名（日本語学、政治学など）、ミコラスロメリス大学に2名（2013年11月現在）である。

また、日本語学習推進のため、日本語スピーチコンテストが2004年にビリニウス大学で開催された後、2010年から国際交流基金の助成を不定期に得ながら、毎年、ビリニウス大学、ヴィータウタス・マグヌス大学で交互に開催されている。また一般向けには、在リトアニア日本大使館主催定例俳句コンテストも、*Paparčio šventi ženklai (Bracken saint signs)* (Klaipėdos universiteto leidykla) という日本の俳句選集を翻訳紹介しまとめた著者、前述のヴィータウタス・ドゥムチュスなども参加し、定期的に開催されている。

B. 独立後の日本研究

独立後の1991年にリトアニア東洋学会の会長職をネイマンタス・ロムアルダスから引き継いだ前述のアンターナス・アンドリヤウスカスは、*Tradicinė japonų estetika ir menas*（伝統的日本の美と芸術）という著作の中で、ジャポニスム現象および、その西洋文化やリトアニアの芸術家（M.K. チュルリョーニスやフルクスス運動のJ. マルチューナス）に与えた影響を分析している。さらに、リトアニア系アメリカ人で、禅仏教と現象学の関係を研究するオハイオ大学名誉教授のアルギス・ミツクーナス (Algis Mickunas) も、リトアニアで2012年に *Per Fenomenologiją į Dzen*（現象学から禅へ、Vilnius: Baltos Lankos）を出版している。その他、リトアニアでの日本関連の研究者（博士）は、ダリヤ・

シュヴァンバリーテ（日本文学における中国文化の影響）、ラムーナス・モティヤカイティス（Ramūnas Motiekaitis、日本の哲学・音楽）、ユルギータ・ポロンスカイテ（Jurgita Polonskaitė、日本の現代文学）、アウレリウス・ジーカス（政治学）、アンドリウス・タモシャヴィチウス（Andrius Tamoševičius、現象学と禅の美学の比較研究）等である。

また、2000 年以降、アジア関連の学術雑誌も以下の通り出版されるようになった。

Acta Orientalia Vilnensia. Audrius Beinorius (editor-in-chief). Vilnius University Press (from 2000).

Rytai-Vakarai: komparatyvistinės studijos (East-West: Comparative Studies).

Antanas Andrijauskas (editor-in-chief). Institute of Culture, Philosophy and Art Press (from 2000).

International Journal of Area Studies. Aurelijus Zykas (editor-in-chief). Vytautas Magnus University Press.

また、これら学術雑誌の中で日本特集が組まれたものも含め、出版された日本関連の書籍、および日本研究プロジェクトの成果としての主な日本関連研究書（単行本、論集のみ）は、以下の通りである。

Dalia Švambarytė. *Japonų-lietuvių kalbų hieroglifų žodynas* (Japanese-Lithuanian Character Dictionary 漢り字典). Vilnius: Alma Littera, 2002 (ISBN: 9955-08-130-9).

Acta Orientalia Vilnensia 6:1 (2005), Special Issue: Frontiers of Japanese Studies, ed. Kyoko Koma. Act of Conférence “Image of Japon in Europe.” Kaunas: Vytautas Magnus University, 2008（東芝国際財団助成事業）。

Kyoko Koma, ed. *Contemporary « Japon » seen from European Perspectives*. Kaunas: Vytautas Magnus University, 2009（東芝国際財団助成事業）。

Kyoko Koma, ed. *Japan as Image*. Kaunas: Vytautas Magnus University, 2010（国際交流基金助成事業）。

Dalia Švambarytė. *Intertekstualumas klasikinėje japonų literatūroje* [Reading the Intertextuality of Japanese Classical Literature]. Vilnius: Vilniaus universiteto leidykla, 2011.

- Kyoko Koma, ed. *Japan as Represented in European Medias: Its Analytic Methodologies and Theories—In Comparison with Korean Cases*. Kaunas: Vytautas Magnus University, 2011 (国際交流基金助成事業).
- Kyoko Koma, ed. *Acta Orientalia Vilnensia* 12:1 (2011), *Modern Japan and Korea Seen through Various Media*. Vilnius: Vilnius University, 2012.
- Kyoko Koma, ed. *Reception of Japanese and Korean Popular Culture in Europe* (1, 2). Kaunas: Vytautas Magnus University, 2011, 2012 (サントリー文化財団助成事業).
- Kyoko Koma, ed. *Development of “Japan” in the West: Comparative Studies*. Kaunas: Vytautas Magnus University, 2012 (国際交流基金助成事業).
- Kyoko Koma, ed. *Representation of Japanese contemporary popular culture in Europe*. Kaunas: Vytautas Magnus University, 2013 (国際交流基金助成事業).
- Kyoko Koma and Grazina Ciuladiene, eds. *Japan and Europe in Global Communication*. Vilnius: Mykolas Romeris University, 2014 (国際交流基金助成事業).

また、アジア関連著作、プロジェクトの成果において日本が論じられたものとして、以下の書籍が挙げられる。

- Antanas Andrijauskas. *Grožis ir menas. Estetika ir meno filosofijos idėjų istorija: Rytai–Vakarai* [Beauty and Art. History of Ideas of Aesthetics and Philosophy of Art: East–West]. Vilnius: VDA leidykla, 1995.
- *Civilizacijos teorijos metamorfozės ir komparatyvizmo idėjų sklaida* [Changing Theories of Civilization and the Spread of the Idea of Comparative Studies]. Vilnius: Gervėlė, 1999.
- *Orientalistika ir komparatyvistinės studijos* [Oriental and Comparative Studies]. Vilnius, 2001.
- *Lyginamoji civilizacijos idėjų istorija* [A Comparative History of the Idea of Civilization]. Vilnius: VDA, 2001.
- *Istorinė Rytų ir Vakarų civilizacijų santykių raida* [The Historical Evolution of Relations between Eastern and Western Civilizations]. Vilnius, 2002.
- *Komparatyvistinė vizija: Rytų estetika ir meno filosofija* [Comparative Vision: Aesthetics and Art Philosophy of the East]. Vilnius: KFMI I–kla, 2006;

Kultūrologijos istorija ir teorija [The History and Theory of Cultural Studies].

Vilnius: VDA leidykla, 2003.

— *Kultūros, filosofijos ir meno profiliai (Rytai–Vakarai–Lietuva)* [Profiles of Culture, Philosophy, and Art (East–West–Lithuania)]. Vilnius: Gervėlė, 2004.

— *Neklasikinės ir postmodernistinės filosofijos metamorfozės* [Metamorphoses of Non-classical and Postmodern Philosophy]. Vilnius: Vilniaus aukciono biblioteka, Meno rinka, 2010.

Aurelijus Zykas, ed. *Rytų Azijos studijos Lietuvoje*. Kaunas: Vytautas Magnus University, 2012 (国際交流基金助成事業).

研究プロジェクトとして、ビリニウス大学アジアセンター主催のアジア学バルティック同盟 (Baltic Alliance of Asian Studies [BAAS]) の活動の一環としての「アジアにおける伝統知の体系」などもあるが、上記した成果論集に見るように、LIETUVOS MOKSLO TARYBA (リトアニア研究評議会) のみならず、国際交流基金、東芝国際財団、サントリー文化財団など日本の公私助成機関の日本研究活動への助成は重要な役割を占めている。このようなプロジェクトを通して、リトアニア内のみならず、欧州、日本の問題意識を共有する研究者ネットワークを国際的に形成できると同時に、国際的かつ学際的側面から、研究テーマを議論することも可能となるため、プロジェクトの実現を支援してくださる助成団体の存在はリトアニアの日本研究にとって大変心強いものである。

リトアニアにおける日本研究の今後の課題

独立後のリトアニア国内で本格的に日本語教育が始まって 20 年余り、そして、日本研究を体系的に学べるようになって 10 年となり、リトアニアの日本学・日本研究は今、発展途上の段階にあると言えるだろう。今後の発展のための現状の課題として筆者は以下 2 点を列举したい。

1 点目は、リトアニアにおける日本研究分野の拡張である。現状、日本に関する研究分野も研究者の人数もまだ限定的である。しかし、独立以前に旧ソ連で日本学を学んだ第一人者たちがリトアニアで育てている学生たちが巣立ち、日本の文部科学省等の留学助成制度を利用して、日本へ留学し、リトアニアに

における日本研究の分野もさらに広がってきている¹²。今後、日本研究をより深くそして拡大していくために、それらを推進する研究者や教育者の育成、また、日本研究を専攻した後の彼らの就職先の検討を考慮することなども課題として上がってくるだろう。

2点目として、中国をはじめとする他のアジア諸国の台頭を反映してか、東アジア、東南アジア、またインドまでを射程にいらしたアジアセンター、アジア学が主流となるリトアニアにおいて、いかに日本学を推進していくかということである。現在、日本学関連の博士論文を準備する場合は、政治学・社会学など、それぞれの学問、専門分野で日本を研究対象に選択するというケース、もしくは日本の大学に博士論文を提出するのが現状である。このような状況において、アジア学という枠組みで日本を学べるという国際性・学際性の利点も踏まえながら、アジア研究の中に埋もれてしまわない、リトアニアにおける確固たる日本研究を推進する意識を常に念頭に置いておく必要があるだろう。そのためには、日本、海外の研究機関とも提携しつつ、国際的・学際的な日本研究の交流を推進しながら、さらにリトアニアにおける日本研究を構築していく必要があると考える。

12 日本の国立大学を中心とした博士課程の学生の研究テーマは日本語、日本研究のみならず、自然科学、経済、芸術、ライフサイエンス、技術開発、海洋科学、E ビジネスマネジメントと多岐にわたっている（2013年11月30日付け在リトアニア日本大使館広報文化担当[当時]クリスティーナ・シモナイティエ提供データによる）。